

KIJ 語学院東京校

自己点検・評価票

2023年6月19日

日本語教育機関名: KIJ 語学院東京校(2022年度分)			
実施日: 2023年3月15日、4月7日 実施責任者: 羽田有利			
実施担当者(役職): 羽田 有利(理事長)、大谷 雅子(学院長)、山崎 令賀(教務主任)			
1 教育理念・教育目的			
1.1	理念・ミッション		
	世界の異なった国から集った留学生達に日本語と日本での生活を通して日本の文化を理解してもらい、やがて彼らの国と日本を結ぶ人材として成長して欲しいと願って KIJ 語学院を設立した。今、人類に最も必要とされることそれはお互いの理解である。それぞれの文化を認め違いを拒否したり、責めたりするのではなく、それを理解し、お互いに人間であるという原点を見つめて歩み寄る。その第一歩を KIJ 語学院として少しずつ進めていきたい。それが設立の基本であり理念である。		
1.2	教育目標		
	上記の理念を現実のものとするために学生の日本語能力のレベルアップを願い、教師は充実した授業を行う。同時に教師と学生、学生と学生が信頼し合える人間関係をつくっていく。聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく学び、日本の大学、大学院、専門学校の授業についていける日本語をマスターし、日本語能力試験 N1、N2 に合格できる力をつける。		
1.3	育成する人材像		
	異文化体験を通じて、日本と出身国との懸け橋となる国際人を育成する。		
	評価項目	評価	現状・課題・改善計画等
1.4	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	A	学校の Web サイトで公開しており、学生便覧にも記載し周知理解されている。
1.5	理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	A	学校 Web サイト及び学生募集等で配布する学校パンフレットにも掲載されており、周知されている。
2 学校運営		評価	現状・課題・改善計画等
2.1	日本語教育機関の告示基準に適合している。	A	「告示基準」適合状況点検リスト表を作成し、確認した。
2.2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	A	年に2回(3月、9月)教職員全体会議を行い、経営目標及び新学期の目標などを周知されている

2.3	管理運営の諸規程が整備され、規程に基づいた運営が行われている。	A	コロナ禍の中でも、できる限り安全な学校運営を優先した。
2.4	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	A	組織図及び職務分掌表で権限と責任を明確に定めており、機能している。
2.5	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがある。	A	Teams システムを使い学内での情報を共有している。
2.6	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている。	A	学内に当該国の言語が話せるスタッフが常駐し、情報提供している。
2.7	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	A	クラス担任、各国担当学生課職員が連携を取り合い、適切に対処している。
2.8	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。	A	定期的に会議を開き、認識を統一している。
3 教育活動の計画		評価	現状・課題・改善計画等
3.1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	A	2年、1年9か月、1年6か月、1年3か月の4コースを設けている。
3.2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	A	教育カリキュラムを体系的に編成し、計画的に指導している。
3.3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	A	公的に認知されている熟達度に合ったレベル設定をしている。
3.4	教育目標に合致した教材を選定している。	A	各レベル目標に合致した教材を選定している。
3.5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。注:教材等の著作物(電子媒体を含む。)の複製について著作権法上の制限事項・禁止事項を 教員及び学生に伝えなければならない。	B	極力テキストを購入することに努め、自作教材を編集することに努めている。
3.6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	B	教務主任が、授業に入るなどして、共通理解が得られるよう努めている。
3.7	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	A	教員の能力、経験に応じた教員配分をしている。
4 教育活動の実施		評価	現状・課題・改善計画等
4.1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	A	入学時にプレースメントテストを実施し、学生のレベルに応じたクラス配分をしている。
4.2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編	A	共有情報システムによって、情報

	成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。		共有をしている。
4.3	開示されたシラバスによって授業を行っている。	A	全教員にシラバスを開示し、それに即した授業を展開している。
4.4	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	A	タブレットを使った出席確認をし、システムにより集中管理している。
4.5	理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っている。	A	授業において、適時小テストなどを行い、確認している。
4.6	学生の自己評価を把握している。	B	自己評価調査は定期的に行われておらず、今後改善の余地がある。
4.7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。	B	クラス担任制をしいているので、個別指導担当者は担任となっている。
4.8	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。	C	現状として該当者はいない。
5 成績判定と授業評価		評価	現状・課題・改善計画等
5.1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している。	A	一年を前期、後期に分け、各期末テストを行い成績判定する。
5.2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	A	前期、後期各期それぞれ成績表を配布し学生に伝えている。
5.3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A	定期的に教務主任が検証している。
5.4	授業評価を定期的に行っている。	B	定期的に評価している。
5.5	評価体制、評価方法及び評価基準が適切である。	A	常時教務主任が検証している。
5.6	学生による授業評価を定期的に行っている。	B	半期毎にアンケート調査を実施している。
5.7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。	B	反映できていない部分もあり、今後改善の余地がある。
6 教育活動を担う教職員		評価	現状・課題・改善計画等
6.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A	職務内容及び責任と権限が明確に定められている。
6.2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	A	教育達成目標に必要な教員の知識、能力は明示されている。
6.3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している。	A	教員、職員の採用方法及び雇用条件は募集要項に明示されている。

6.4	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしている。	A	教員の研修会が定期的に行われ、教育の質が強化されている。
6.5	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。	A	情報の共有によって常に各問題において、認識を統一している。
6.6	教員及び職員の評価を適切に行っている。	A	指導部が適切に行っている。
7	教育成果	評価	現状・課題・改善計画等
7.1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している。	A	ITシステムにより、記録、保管されている。
7.2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	A	出席状況、成績などによって判定し、適切に行われている。
7.3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	A	団体申込、個人申込に拘わらず、全て把握している。
7.4	卒業又は修了後の進路を把握している。	A	進路先は全て把握している。
7.5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組を行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	A	卒業生との連絡を密にとると同時に、進路先での状況を把握することに努めている。
8	学生支援	評価	現状・課題・改善計画等
8.1	学生支援計画を策定し、支援体制を整備している。	A	学業、生活面において、学生課職員が常に留意している。
8.2	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限を明確化している。また、これらの者を学生及び教職員に周知している。	A	各国学生担当者を配置し、常に学生と連絡を取り合っている。
8.3	日本社会を理解し、適応するための取組を行っている。	A	校外活動などを通して、日本社会を理解し、適応できるよう取り組んでいる。
8.4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的 に実施している。	A	入学直後にオリエンテーションを実施し、学業及び生活指導を行っている。(各国語対応)
8.5	住居支援を行っている。	A	学校付近に寮を準備し、入学後に住めるようにしている。
8.6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	A	法定時間を超過することのないよう指導している。
8.7	健康、衛生面について指導する体制を整えている。	A	一年一度の健康診断を実施し、体調の悪い学生には学生課職員が相談にのっている。
8.8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入している。	A	全員加入している。東京海上日動火災保険(総合補償タイプ)

8.9	交通事故等の相談体制を整備している。	A	担当職員を配置している。
8.10	危機管理体制を整備している。	A	災害時対応及び個人情報漏洩等に関して適切に対応している。
8.11	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的に実施している。	A	災害発生時の避難方法などを定期的に指導している。
8.12	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知している。	A	Teamsを使って迅速に連絡している。
9 進路に関する支援		評価	現状・課題・改善計画等
9.1	進路指導担当者を特定している。	A	各クラス担任が進路指導を担当している。
9.2	学生の希望する進路を把握している。	A	担任が定期的に面談し、学生の進路指導をしている。
9.3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	A	進路指導室を設け、常時進学資料を配置している。
9.4	入学時からの一貫した進路指導を行っている。	A	本人の目標、能力に応じた指導をしている。
10 入国・在留に関する指導及び支援		評価	現状・課題・改善計画等
10.1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A	学生課職員全て把握し、対応している。
10.2	担当者は、研修受講等により最新、かつ、適切な情報取得を継続的に行っている。	A	常に最新の情報を取得し、迅速に対処している。
10.3	地方出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置している。	A	申請等取次者は現在 2 名配置している。
10.4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	A	担当者が適宜行っている。
10.5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	A	生活指導員が常に把握している。
10.6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	A	担当職員が即時対応している。
10.7	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。	A	常に学生の動向に注意し、問題の発生を事前に防いでいる。
10.8	過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。	A	学生課職員が各学生の状況を把握するよう努めており、過去 3 年間発生させていない。
11 教育環境		評価	現状・課題・改善計画等
11.1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	A	コロナ禍以後教室の窓と出入口は常に開放し、換気に気を付けている。
11.2	授業時間外に自習できる部屋を確保している。	A	学生の自習室を設けている。

11.3	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。	B	学習に関する書籍、問題集などを配置している。メディア面においては改善の必要あり。
11.4	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	B	各教室に視聴覚設備があるが、改善の余地がある。
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	A	校舎に事務室、教務室を設置している。
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	A	学生数に応じた数のトイレを設置している。
11.7	法令上必要な設備等を備えている。	A	法令上必要な設備は整っている。
11.8	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。	A	避難経路を決めている。
12 入学者の募集と選考		評価	現状・課題・改善計画等
12.1	理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。	A	年4回学生募集している。
12.2	機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。	A	各国担当職員が対応している。
12.3	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	A	ホームページ、パンフレット等において、各国言語で明示している。
12.4	海外の募集代理人(エージェンツ等)に最新、かつ、正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握している。	A	各国担当の職員が海外の募集代理人と常時連絡を取っている。
12.5	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	A	事前資料を審査の上、面接及び日本語テストを行っている。
12.6	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者(職員等)が面接などの調査を行うよう努めている。	A	事前提出された資料を審査し、該当者を面接、テストによって、ダブルチェックを行い、申請者を決めている。
12.7	入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。	A	入学時にプレースメントテストを実施し、クラス分けをして指導していく。
12.8	入学検定料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	A	入学案内に明示している。
12.9	関係諸法令に基づいた学費返還規程が定められ、公開されている。	A	関係諸法令に基づいた規定を、入学案内に明示している。

13 財務		評価	現状・課題・改善計画等
13.1	財務状況は、中長期的に安定している。	A	入学者が定員にほぼ到達しているため、財務状況は安定している。
13.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	A	税理士により常にチェックされている。
13.3	適正な会計監査が実施されている。	A	税理士により常にチェックされている。
14 法令の遵守		評価	現状・課題・改善計画等
14.1	法令遵守に関する担当者を特定している。	A	学院長が担当している。
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている。	A	就業規則、組織規程で体制を整備している。
14.3	個人情報保護のための対策をとっている。	A	教職員に徹底させている。
14.4	地方出入国在留管理局、その他関係官公庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A	担当職員が決まっており、事務長が常にチェックしている。
15 地域貢献・社会貢献		評価	現状・課題・改善計画等
15.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	A	地域貢献活動に積極的に参加している。
15.2	学生ボランティア活動への支援を行っている。	A	地域貢献活動を紹介し、参加させている。

- ・A:「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B:「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C:「未達成」あるいは「適合していない」項目。